



STIは、Sexually Transmitted Infections の略で、性感染症のことを言います。性感染症は、性行為によって感染する病気の総称を言います。1975年にSTDという言葉がWHOから提唱され、「性行為感染症」と表現していましたが、近年「性感染症」と名称が変わりました。現在では性行為により感染する可能性のある病気について、無症状のものや全身的に現れる可能性のあるものを含んで広く表現し、STIという言葉が用いられるようになりました。

感染経路について

STIの感染経路は「性行為」です。性行為以外の日常生活では感染しません。病原菌を含む精液、膣分泌液、血液などが、口や性器の粘膜、皮膚などに接触することで感染がおこります。

予防方法

性感染症を予防するために、以下のことを心がけましょう。

- ・不特定多数の人と性行為をしない
- ・最初から最後までコンドームを使用する
- ・オーラルセックスをした場合は、咽頭のクラミジアと淋菌検査も受ける

なぜ気をつけないといけないの？

症状が無くても進行します

STIの中には、症状が出にくいものもあります。しかし、症状が無い潜伏期間であっても病気は進行し、パートナーにうつしてしまう可能性があります。

不妊症の原因になります

男女ともに、不妊症の原因になることがあります。また、妊婦さんの場合、流産や早産の原因になることがあるので、産婦人科できちんと治療することが大切です。

子どもに感染します

出産時などに感染の可能性があります。子どもに感染すると、肺炎や失明の原因になったり、死にいたることもあります。妊娠したら、必ず妊婦検診を受けましょう。

HIVに感染しやすいです

STIにかかっていると、HIV(エイズウイルス)に感染する可能性が通常より3~5倍高くなると言われています。STIにかかっていると粘膜が炎症を起こした状態になり、抵抗力が落ちて細菌やウイルスが侵入しやすくなるからです。

主な性感染症一覧

梅毒、尖圭コンジローマ、B型肝炎、C型肝炎、淋菌感染症、膣トリコモナス症、性器クラミジア感染症、ケジラミ症、後天性免疫不全症候群(エイズ)、性器ヘルペス、性器カンジダ症

梅毒が拡大しています

2010年以降、梅毒の感染者数は増加を続けており、**女性は20歳代、男性は20歳代~40歳代**が多くなっています。

・梅毒に感染すると、感染から約3週間後に性器や口の中に小豆から指先くらいのしこりができたり、治療をせずに3か月以上放置すると、痛み、かゆみのない発疹が手のひらや体中に広がることがあります。また、これらの症状が消えても感染力が残っているのが特徴です。

・治療をしないまま放置していると、数年から数十年の間に心臓や血管、脳などの複数の臓器に病変が生じ、時には死にいたることもあります。

当協会では梅毒の検査を受けることができます

梅毒検査(TPHA・RPR)料金:1,100円(税込)

梅毒にかかっているかどうかを調べる検査です。

血液検査で調べることができます。

TPHA法:梅毒トレポネーマに対する特異的な抗体を測定する

RPR法:梅毒に感染すると産生される抗脂質抗体を検出する

一般にワッセルマン反応といわれる

RPR法は感度に優れ、比較的早期の梅毒感染を発見できます。しかし、梅毒に感染しなくても偽陽性になる可能性はあるため、TPHA法の検査結果とあわせて感染の有無を確認しましょう。

不安を感じたらどこに相談すべき？

保健所や医療機関に相談しましょう。

症状が無くても心配なことがあった場合には、一人で悩まずに、保健所に相談するようにしてください。

匿名で電話相談も受けられます。保健所では、HIV感染症と梅毒の検査を同時に受けられるところが増えていきます。

あわせて、クラミジアや淋菌感染症などの検査を行っているところもあります。(保健所により検査項目や費用は異なります)

何か症状があったり、性感染症が疑われる場合には、病院など医療機関を受診するようにしましょう。性感染症科のほか、

男性は泌尿器科、女性は産婦人科などを受診することができます。

治療が中途半端になると再発を繰り返したり、悪化したりすることがあるので自己判断で治療を中断しないようにしましょう。